

担架の特徴

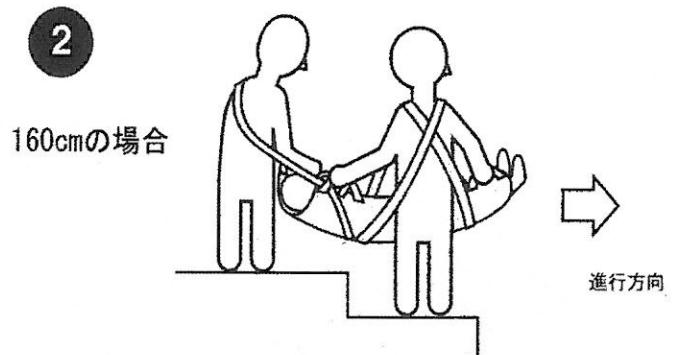
要搬送者を担架に持ち上げずに、身体を斜めにして▲印にお尻がくるように担架を差込み乗せます。

狭い階段や曲がりくねった移動には特に適しています、持ち手ベルトが沢山ありますので場所や運ぶ人数に応じて色々な搬送方法ができます（下図参照）

使用手順

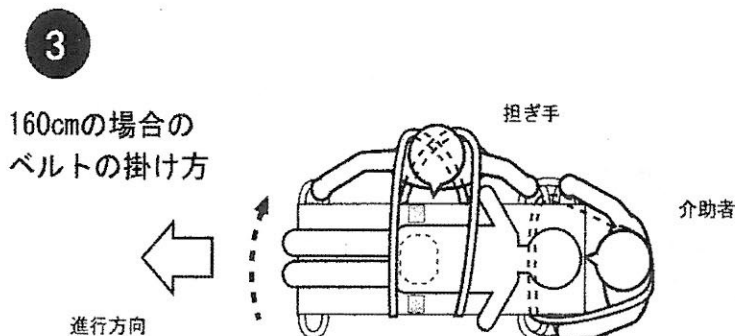
- 1 人を乗せないで、担架がウエスト位置にくるように黄色ベルトで調整します。
(2人で担ぐときに身長差がある場合は背の低い人に合わせて担架が水平になるように調整します。)
- 2 乗せる人の身長差に関係なく▲印にお尻がくるように寝かせます。
- 3 担架はできるだけ身体に引きつけ、静かに立ち上がります。
- 4 移動のときは足側を前方にし、担ぐ人も、進行方向に身体をできるだけ向けて歩きます。

狭い階段・浴室の搬送方法



1人で担ぐ場合は、別紙の取り扱い説明書の様に背中ではベルトを交差させて持ち上げ移動します。
2人で担ぐ場合は、介助者が頭側持ち手ベルトを持ち1)図の様に移動します。

1人で担ぐ場合は、別紙の取り扱い説明書の様に背中ではベルトを交差させて持ち上げ移動します。2人で担ぐ場合は、介助者が頭側持ち手ベルトを持ち2)図の様に移動します。又担架付属の緑色安全ベルト【上半身側】1本を外し担架頭部の持ち手ベルトに通し、カバン掛けすることも出来ます。



担ぎ手は、黄色のベルトを自身の背中で交差するように掛け、足側の持ち手ベルト左右を握ります。
介助者は搬送者の頭部が下がらない様に、持ち手ベルトを握り移動します。



介助者は緑の安全ベルトを担架頭部の持ち手ベルトに通して肩に掛けます。この時に搬送者の頭部が下がらない様に、緑色のベルトは出来るだけ短くして肩に掛けます。